江弘毅さん（編集者）が選んだ「岸和田の本好きのための推薦本 10 冊」

資料	コメント
大阪アースダイバー **中沢新一/著** **講談社　2012.10**	「海民・渡来民」がつくった都市だというところに「大阪の原理」が存するという、大阪の基層を古代より解き明かした好著。大阪（市～府）に住む者、大阪となんらかの関わりを持って生活する人にとって、この本の存在は有難い。また岸和田人必読の最終章（補遺）「捕鯨とだんじり」には、わたしも登場しています。
修業論 **内田樹/著** **光文社　2013.7**	長い間、内田樹先生の担当編集者として、すべての著作を現在進行形で読んでいますが、この本は「人は人として、どう生きるべきなのか」といった哲学的命題に、真っ直ぐに、身を以てとりかかり、実人生をかけて説き明かしたものだといえるでしょう。内容はやさしいとは言えませんが、身体にすっと入ってくる文体により、ずば抜けた名著だと思います。
消費をやめる **銭湯経済のすすめ** **平川克美/著** **ミシマ社　2014.6**	ものをおカネで買うことが生活のすべてになる消費欲望。そしてそのお金を手っ取り早く稼ぐことへの執着。ちょっと視点を変えて、そういう生き方をやめてみる。それはたとえば自分の街の銭湯、喫茶店で過ごすことからはじまる。米シリコンバレーでＩＴ投資会社をつくったもののビジネスに失敗して、その実感から経済・消費至上主義を見直したやさしい人生論。
京都の平熱 **哲学者の京都案内** **鷲田清一著** **講談社　2007.3**	京都駅から京都市バス 206 番に乗って、自分が生まれて育ち、「人生がぜんぶあった」京都を語る。べた焼き（岸和田の「から焼きの洋食」）のお好み焼き屋の話など、庶民の街としての京都の話が絶品。文系から初めて大阪大学総長に就任された時期に、こういうたおやかな文章を書きはったことに驚愕。鈴木理策さんの写真もすごく良い。
告白 **町田康/著** **中央公論新社　2008.2**	河内音頭のスタンダードナンバーとして歌い継がれる、明治時代の実事件「河内十人斬り」がモチーフ。ヤクザの親分にわが嫁を取られ、借金を踏み倒され、おまけにドツキ回された主人公と弟分の復讐劇だが、なぜ「人が人を殺すのか」という深遠な問いに迫る。登場人物が口にする、荒っぽい河内弁のリズム感が心地よい。町田さんはこの作品で谷崎潤一郎賞を受賞。文庫版 850 ページの大作だが一気に読めます。

江弘毅さん（編集者）が選んだ「岸和田の本好きのための推薦本 10 冊」

人生行きがかりじょう 全部ゆるしてゴキゲンに **バッキー井上/著** **ミシマ社　2013.9**	ミシマ社の「22 世紀を生きる」シリーズ第一弾。バッキー井上氏は、京都錦市場の漬物屋のご主人にして、日本初の「酒場ライター」。高校を中退し、水道工事屋になり、広告プロダクション、雑誌ライター、漬物屋…と、ユニークな人生を「行きがかりじょう」で生きてきた、その足跡を語る。井上氏は地元の祇園祭では神輿を担いでいる。毎年、岸和田だんじり祭は必ず見に来てます。
悪医 **久坂部羊/著** **朝日新聞出版** **2013.11**	この作品で第 3 回医療小説大賞を受賞。堺市に生まれて育った久坂部羊さんは、阪大医学部を出て小説家になった方。現代版「白い巨塔」と評された医療サスペンスの 2 作目『破裂』で、作家としての地位を確立した。この『悪医』ではひとりのガン末期患者と医師の関係を通し、ビジネスとしての医療、ホスピスなどの問題を考えるリアルな内容になっている。
繚乱 **黒川博行/著** **毎日新聞社　2012.11**	このほど『疫病神』コンビの最新作『破門』で直木賞を取られた黒川さん。こちらの『繚乱』は大阪府警を追われ元マル暴担当の不動産競売屋になった伊達、堀内のコンビ。倒産パチンコ店にからむ極道や街金、銀行、警察ＯＢ、北新地ホステス等々の「ワル」ぶり、それに立ち向かうコンビの痛快さ。ほとんど大阪弁の会話体（抜群にいい）で構成される警察小説の真骨頂。こういうのはホンマにあったら難儀やけど、ホンマみたいなおもろい話。
偶然の装幀家 **矢萩多聞/著** **晶文社　2014.10**	小学生のころから不登校児で、5 年生の時に初めてインドに行き、そのまま暮らしてしまった著者。版元のシリーズテーマである「就職しないで生きるには 21」に、インドでの生活ほかの柔軟に応えている。仕事論、教育論としても読め、文句なしに面白い。矢作さん私の著書「飲み食い世界一の大阪」（ミシマ社）を装幀してくれました（その話も出てきます）。
村上海賊の娘 **和田竜/著** **新潮社　2013.10**	織田信長×石山本願寺の「木津川合戦」を描いた歴史小説。泉州海賊武士が炸裂させるリアルな岸和田弁（泉州弁）が話題を呼んだ。で、「本屋大賞受賞記念」グランフロント大阪の紀伊國屋書店で対談の相手に江が呼ばれました。おなじ岸和田出身の林英世さんの丁寧な方言指導によってこの本がミリオンセラーになりました。

江弘毅さん（編集者）が選んだ「岸和田の本好きのための推薦本 10 冊」